

記者発表（配付）資料

平成 23 年 12 月 20 日

所属部課	館長	副館長	庶務係長	担当	連絡先
萩博物館	湯本重男	樋口尚樹	植村 正	伊藤靖子	25-6447

件名	年中無休！年末年始を萩博物館で
----	-----------------

萩博物館は、自治体直営館としては、全国でもまれな年中無休で開館している博物館です。年末年始も特定非営利活動法人NPO萩まちじゅう博物館と協働で開館し、皆様のご来館をお待ちしています。

◆特別公開「高杉家ゆかりの雛人形」

藩主毛利家から拝領した、高杉家ゆかりの雛人形が昨年萩に里帰りしました。2年の期限付きで、東京在住の高杉家から借用したものです。高杉晋作も3人の妹とともにひな祭りをしていたのでしょうか。

とき 12月28日（水）午前9時～（4月3日まで展示）

ところ 萩博物館高杉晋作資料室



※ 高杉家伝来の雛人形 （高杉春正氏蔵）

高杉晋作が生まれた、長州藩士高杉家の子孫宅に伝わる雛人形。道具には藩主毛利家の裏紋が入っているので拝領品と考えられるが、拝領した時期などについては不詳。高杉家は藩主側近を何人も輩出した名門で、それが晋作の大きな誇りだった。晋作には3人の妹があったから、ひな祭りの季節には高杉家は華やかな雰囲気にもまれていただろう。

これは江戸時代初期、京都の雛屋次郎左衛門が作り出した「次郎左衛門雛」と呼ばれるスタイル。天明(1781-8)ころの川柳に「きめのいい団子に目鼻次郎左衛門」と詠われた、まん丸に近い顔に引目鉤鼻の面相が特徴だ。江戸時代は上級武家の雛人形の正当派として愛された。次郎左衛門の名は襲名され、13代まで続き、昭和になり途絶えた。

◆正月飾り・飾りつけ

萩博物館所蔵の萩藩主ゆかりの三方さんぽうを使って正月飾りをし、来年の干支「辰」のタペストリーが出迎えます。

と き 12月28日(水) 午前9時～(1月10日まで展示)

ところ 萩博物館エントランスホール

※ 沢瀉紋入三方おもたかさんぽう

萩藩士乃美のみ氏が藩主毛利氏から拝領した三方。「沢瀉紋」は、「一に三つ星紋」とともに毛利氏の家紋。隣の「菊花紋」は、毛利氏が朝廷から拝領した家紋。

※ 雲谷等益と吉田道亭の「龍図」

雲谷等藩は、萩藩御抱え絵師雲谷派宗家の4代目。貞享2年(1685)に八萩八景図巻を描いた絵師として知られる。

吉田道亭は、江戸時代後期に美術工芸品としての小畑焼の名声を高めた絵付師。磁器の絵付けだけでなく、画幅も描いた。

◆特別展開催中

「日本の近代を拓いた萩の産業人脈 ～藤田伝三郎とその時代～」 (4月10日まで展示)

関西財界のリーダー藤田伝三郎を源流とする、久原房之助(伝三郎の甥)・田村市郎(伝三郎の甥)・鮎川義介(房之助の義兄)らの萩ゆかりの実業家たちは、明治維新以降、近代化の潮流の中で日本の産業を切り拓き、自動車・鉄道車両・金属・水産・観光など現在の日本を代表する企業の基礎を築きました。彼らの夢と情熱をかけた挑戦の軌跡を追います。

◆NPO萩まちじゅう博物館学芸サポート・古写真班活動展示および交流会

学芸サポート・古写真班が、『宮本常一の足跡 見島の今昔』をエントランスホールで開催します。市民の方、帰省された方々にも楽しんでいただける内容です。あわせて写真を元に参加者同士の情報を語りあう交流会も開催します。

【展示会】

と き 12月23日(金) 午前9時～(1月17日まで展示)

ところ 萩博物館エントランスホール

【交流会】

と き 12月24日(土) 午後1時30分～3時30分

ところ 萩博物館エントランスホール

◆萩博物館ミュージアムショップ・レストラン新春イベント

元旦から3日間、ショップではお買い上げの方に、萩博オリジナルハガキとしおりをプレゼント、レストランでは、食事をされた方にコーヒーを無料サービスします。

■開館時間 午前9時～午後5時(入館は午後4時30分まで)

■休館日 なし ※年末年始も休まず開館

■観覧料 大人500円、高校・大学生300円、小・中学生100円、団体割引20人以上20%引、障がい者割引20%引